ハエの防除を徹底しましょう

５月になり、ハエが気になる時期がやってきました。ハエの発生は、苦情の原因や病原体の伝播、ストレスによる生産性の低下を招くので、的確な防除を実施、畜舎衛生環境の保持に努めましょう。

【ハエの防除対策】

① **環境対策**：*ハエの発生源となる環境を作らないこと（最重要）*
新鮮な畜ふん、堆肥舎周辺の堆肥、給水器の下の敷料、こぼれた餌、汚水溜り等は速やかに処理し、畜舎内外をこまめに清掃しましょう。
特に堆肥化処理は適切な水分調整の上、好気性発酵処理をすること。
なお、堆肥への**石灰窒素（１～２％）**の**定期的な散布**も有効です。

② **幼虫対策**：ハエは、ウジの段階で駆除するのが効果的なのでウジ専用の殺虫剤により、**定期的（週に２～３回）に散布すること。**
また、昆虫成長制御剤（IGR剤）の定期散布（月１～２回）も効果的。

③ **成虫対策**：通常は、**誘引トラップ（ハエ取り紙、ハエ取りシート等）**のような物理的な駆除や殺虫剤を使用する。
大発生した場合は、**空中噴霧で数を減らし、残留噴霧法や毒餌法**が効果的。

【殺虫剤の種類】

種　類	特　　徴
有機リン系	速効性、遅効性、残効性と剤により広い利用法。 残留噴霧や毒餌に使用可能。
ピレスロイド系	除虫菊成分及び類似化合物の総称。速効性がありハエの大量発生時の空間噴霧に使用。残効性もあるが魚類への毒性が高い。
カーバメイト系	速効性だが、毒性はやや強い。
オルソ剤	ウジ対策に有効、臭いが強く、金属やプラスチックの腐食に注意、火気厳禁。
クロロニコチル系	毒餌法や残留噴霧法により長時間効果が持続。
昆虫成長制御剤等（IGR）	ウジの成長（脱皮）を阻害する薬剤で、ウジの発生箇所に直接散布し、ウジからのハエの発生を防ぎます。

【殺虫剤使用時の注意点】

- 同一系統薬剤の長期間使用により薬剤耐性ができることから、一定期間の使用や効果の低下が見られたら、異なる系統の薬剤に切り替えましょう。
- 用法・用量は添付の説明書をよく読んで、正しく使いましょう。
- 殺虫剤が畜体や飼料、生産物にかからないように使用してください。殺虫剤が畜体にかかると「休薬期間」が必要になることがあります。
- 薬剤使用時は手袋、マスク、ゴーグルを着用して人体に影響のないようにしましょう。

京都府丹後家畜保健衛生所　　与謝郡与謝野町字下山田６１６
ＴＥＬ：０７７２－４３－１１２５　ＦＡＸ：４３－１１２４